

付加疑問の作り方

1. 肯定文には()の疑問形を付け加える
否定文には()の疑問形を付け加える

2. 付加疑問の主語は、文の主語を受けて()にする。

Jude Law はロンドン出身ですよね。

Jude Law はロンドン出身ではないですよね。

君は裕福な家庭に生まれたんだよね。

君は裕福な家庭に生まれなかったんだよね。

君は生物学が好きなんだよね。

君は生物学が好きではないんだよね。

君は Harris さんという方からメールを受け取ったんだよね。

君は Harris さんという方からメールを受け取っていないんだよね。

Thomas はいつ財布を盗まれたのか憶えているんだよね。

Thomas はいつ財布を盗まれたのか憶えていないんだよね。

君は一週間病気なんだよね。

君は病気になったことがないんだよね。

Taro はバイオリンを弾いているんだよね。(現在進行形を用いて)

君は誰からも愛されているんだよね。

ネコにはたくさんのノミが付着しているんだよね。(of を用いて)

テーブルの上に一杯のビールが置いてあったよね。

君のテスト結果を見せてくれませんか？

ステーキを焼いてくれませんか？

公園に行きませんか。
